

プロローグ 揺籃の地、京都 4

第1章 日本映画の開拓者 牧野省三……………17

- I 弾む身体、松之助再発見……………18
- II リアルな殺陣と反逆精神……………31
- III 三代に宿る活動屋の魂……………42

第2章 生き続ける実験精神 衣笠貞之助……………55

- I 映像の奔流、集った若き俊才……………56
- II 野心作携え渡欧、最前衛監督と交流……………68
- III 極彩色の王朝絵巻、総力で挑戦……………79

第3章 躍動するパッション 伊藤大輔……………91

- I 活劇のリズム、近代劇の深み……………92
- II 発見された映画術の極み……………104
- III 敗残者の涙と気高き魂……………115

第4章 モラリストと仲間たち 伊丹万作……………127

- I 「恩友」慕った中村草田男……………128
- II 火をつけた画家・重松鶴之助……………139
- III 「冷眼」認めた伊藤大輔……………153

第5章 戦争の足音、天才の苦悩 山中貞雄……………165

- I つかの間の平穩、洗練された笑い／1935年……………166
- II 転換点に降りしきる雪／1936年……………177
- III 暗鬱な予感、懸命な模索／1937年……………186

エピソード 196

関連年表 199

参考文献一覧 206